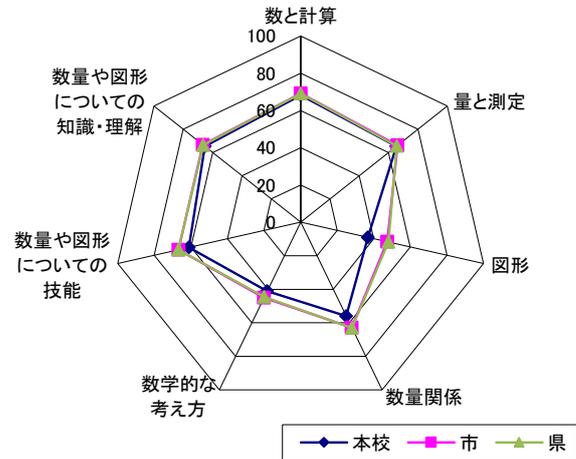


宇都宮市立平石北小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	68.2	69.2	69.1
	量と測定	65.3	66.1	65.6
	図形	36.8	47.4	48.0
	数量関係	56.0	62.9	63.1
観点	数学的な考え方	41.1	45.1	44.6
	数量や図形についての技能	61.1	66.8	66.8
	数量や図形についての知識・理解	65.3	66.6	66.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○4領域の中では一番正答率が高かった。市平均とあまり変わらない結果となった。 ●大きい数・小数・分数についての問題では誤答が目立ち、正答率は69.4%であった。宇都宮市の平均を10.3%下回った。	・計算ドリルやフォローアップシートを活用し、整数-小数=小数の計算に習熟できるようにする。 ・整数-小数の筆算の仕方を復習する。その際、小数点のつけ方や、商の小数第1位に0を入れる場合の手順を再度確認する。
量と測定	○市平均とあまり変わらない結果となった。分と秒の単位で表された時間を秒の単位に換算する問題では、市平均を9.7上回った。 ●はかりに示された重さを読み取る問題では、正答率が72.2%とやや低い結果であった。市平均を13.3%下回った。	・実際に長さを測ったり、重さを量ったりするなど、体験を通して長さや重さの感覚を身に付けられるようにする。 ・個人差が見られるため、TTの授業では下位の児童を中心とし、復習プリントや個別指導を行って、既習事項の再確認を行う。
図形	●市平均を下回った。 特に、円周上の点Aを通る直径を定規を使って作図する問題では、41.7%と低い正答率であった。市との差は22.9と、算数の中では一番正答率に差が出た内容であった。白紙のままの児童も多かった。	・円の作図について、計算ドリルやフォローアップシートを活用して再度手順を確認する。その際、下位の児童には正しい定規やコンパスの使い方を指導し、正確に作図できるようにする。 ・プリント等で類似問題を多く解き、作図の際の用具の使い方や手順の定着を図る。
数量関係	●市平均を下回った。 棒グラフのメモリの大きさを読み取る問題では、正答率が61.1%と低い結果であった。市平均との差は11.0%であった。	・計算ドリルやフォローアップシートを活用し、様々な棒グラフを読み取る問題を解く。特に、目盛りの読み取り方に気を付けるよう指導する。 ・社会や理科、総合的な学習の時間の学習とも関連させてグラフのかき方を指導し、進んでグラフが活用できるようにする。